

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	美容学科 トライチェンジコース(3年制)	2025年度	美容学科 トライチェンジコース2.3年
講義区分	授業科目名	担当教員	時間数
必修科目	関係法規・制度	佐藤 他	32時間
【授業の到達目標】			
国家試験の対策を念頭に置き、まずは理解度をあげて知識を安定させる。小テストの反復により暗記をも定着させていく。後期は国家試験対策として出題確率の高いものからどんどん理解させていき、さらに高得点をとれるような問題を行い解説を行うものとし、美容師国家試験に合格する能力を習得することを目標とする。			
【講義概要】			
理容師法・美容師法による規制と行政による指導監督制度およびその他の関連法規を教育します。また、法規・諸制度を教育するためにその前提となる法制度、衛生行政についての基礎知識についても学びます。			
【授業計画】			
1 法とは何かの説明から条例規則までの説明・問題とまとめ 2 衛生に関する説明と行政機関の説明・問題とまとめ 3 理・美容師法についての説明と定義、免許の説明・問題とまとめ 4 行政処分に関する説明・問題とまとめ 5 管理美容師に関する説明・問題とまとめ 6 昨年度の復習 問題 解説・管理美容師についてのまとめ 問題 7 前回の復習 問題 解説 と 理美容所の開設についてのまとめ 問題 開設者が講ずべき措置についてのまとめ 問題 8 前回の復習 問題 解説 と 理美容所以外での業務、立ち入り検査についてのまとめ問題、違反者に対する処分についてのまとめ 問題 9 前回の復習 問題 解説 と 罰則についてのまとめ 問題、関連法規についてのまとめ 問題 10 全範囲のまとめ 問題 解説 11～16 国家試験出題率が高い順に問題解説を行う			
【成績評価方法】			
授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、学力能力判定試験3回(1年後期、2年後期、3年後期)により評価する。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
講義形式を基本とするが、国家試験に向けた演習授業も適宜取り入れる。 担当教員は、法律学の学位を有し、塾講師の経験し専門学校で教鞭をとっている。国家試験の対策授業に長けている。			

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	美容学科 トライエンジユース(3年制)	2025年度	美容学科 トライエンジユース2.3年
講義区分	授業科目名	担当教員	時間数
必修科目	衛生管理	(WEBへの氏名・プロフィール等の公開は希望いたしません)	96時間

【授業の到達目標】

理容・美容業務に携わるにあたり、感染を防止する手段として消毒法を論理的に理解する。感染症について理解を深める。公衆衛生および環境衛生についての専門的な知識の習得を促すことで、公衆衛生の向上に資する努力義務を理解する。国家試験に合格できる学力能力を習得することを目標とする。

【講義概要】

理容業・美容業に携わるものとして、近代の公衆衛生を理解し、人の健康や感染症を予防することに繋げる。また、感染症についての確かな知識や技能を会得する。感染を防止する手段である消毒法を論理的に学び、理解する。

【授業計画】

1～12	消毒の概念・意義、美容業務との関係 微生物について 消毒法の種類と適用 理学的消毒法 補習及び前期期末試験対策 前期学力能力判定試験(消毒法総論・各論) 前期学力能力判定試験の回答及び解説、化学的消毒法 化学的消毒法 消毒液の取扱いと希釈方法 美容業務における消毒 後期学力能力判定試験試験対策 解説及び総評
13～24	感染症・この単元の目的とポイント・感染、感染症とは～人と感染症、履歴～ 感染症・感染症の種類と法律 感染症・微生物の概念、病原微生物 感染症・感染に対する予防と免疫 感染症・総論の総復習 総論の復習(前期学力能力判定試験解説)から各論(それぞれの感染症)を学習するにあたって 感染症・空気・飛沫を介して感染する感染症 飲食物を介して感染する感染症、血液を介して感染する感染症 各論の総復習、後期学力能力判定試験対策・衛生管理技術を学ぶ重要性について
25～40	公衆衛生:1章公衆衛生の概要(1～3節) 公衆衛生:1章公衆衛生の概要(4節)、2章予防医学と保健(1～3節) 公衆衛生:2章予防医学と保健(3節) 公衆衛生:2章予防医学と保健(3～4節) 前期まとめ・前期学力能力判定試験対策 前期学力能力判定試験解説・復習 環境衛生:1章環境衛生(1～2節) 環境衛生:1章環境衛生(2～3節) 環境衛生:1章環境衛生(4～5節) 環境衛生:1章環境衛生(6節)、2章理容所・美容所の環境衛生(1～2節) 後期まとめ・後期学力能力判定試験対策 後期学力能力判定試験解説・復習

【成績評価方法】

授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、学力能力判定試験5回(1前期・2前期・2後期・3前期・3後期)により評価する。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

講義形式を基本とするが、実験や国家試験に向けた演習授業も適宜取り入れる。
担当教員は、獣医師免許取得。獣医学の博士の学士を有し、専門学校・看護学校にて非常勤講師を勤める。また東京都教育委員会所属の理科支援員として支援活動を行った。

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	美容学科トライエンジコース (3年制)	2025年度	美容学科 トライエンジコース2.3年
講義区分	授業科目名	担当教員	時間数
必修科目	保健	(WEBへの氏名・プロフィール 等の公開は希望いたしません)	96時間
【授業の到達目標】			
ヒトの体内や皮膚についてその成り立ちと働きを説明できるとともに、理容・美容の現場においてその知識を踏まえ、身体状態・肌状態に適切に効率よく施術を行うことができる。			
【講義概要】			
[1学期]身体内の情報の動きを理解し、お客様が安心して施術を受けられるよう配慮できる。 [2学期]身体内の物質の動きを理解し、特に体幹への施術を安全に効率よく実施できる。 [3学期]皮膚および付属器官の構造を理解し、皮膚を健康に保つことができる。 [4学期]皮膚および付属器官の機能を理解し、皮膚のトラブルに対処できる。 [5学期]身体内の運動機能・情報伝達・物質輸送を把握し、理容・美容の施術に応用できる。 [6学期]皮膚および皮膚付属器官の健康と疾患を把握し、理容・美容の施術に応用できる。			
【授業計画】			
1 人体の捉え方と全身の扱い 2 ロ・鼻・目・耳とその周辺 3 骨と関節の構造と全身各部の骨 4 筋の構造と全身各部の筋 5 頭部・顔部・頸部の骨と筋 6 身体各部の表面構造 7 おさらい・定期試験・振り返り 8 中枢神経の機能 9 末梢神経の機能 10 内分泌系の機能 11 ホルモンと身体各部の調節 12 感覚器系の機能 13 呼吸器系と呼吸機能 14 おさらい・定期試験・振り返り 15 血液成分と心臓の機能 16 血管系とリンパ管系 17 消化器系と消化管の構成 18 消化のしくみと消化酵素 19 身体各部の内部構造 20 おさらい・定期試験・振り返り 21 皮膚の形態と肌タイプ 22 皮膚の成分と細胞 23 毛の構造と成長 24 汗腺と脂腺の形態と機能 25 爪の構造と成長 26 皮膚の神経系と循環系 27 おさらい・定期試験・振り返り 28 皮膚の保護・調節作用 29 皮膚の分泌・吸収作用 30 皮膚の再生作用 31 皮膚と体内状態の関係 32 皮膚の水分と脂分 33 皮膚・毛・爪の手入れ 34 おさらい・定期試験・振り返り 35 皮膚疾患の種類と治療 36 外因性皮膚疾患 37 色素異常による皮膚疾患 38 分泌異常による皮膚疾患 39 感染性皮膚疾患 40 おさらい・定期試験・振り返り 41 身体の構成と動作のまとめ 42 身体内の情報伝達のまとめ 43 身体内の物質移動のまとめ 44 おさらい・定期試験・振り返り 45 皮膚・皮膚付属器官の構造のまとめ 46 皮膚・皮膚付属器官の機能のまとめ 47 皮膚・皮膚付属器官の疾患のまとめ 48 おさらい・定期試験・振り返り			
【成績評価方法】			
授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、学力能力判定試験5回(1前期・1後期・2前期・2後期・3後期)および課題提出等を加味して総合的に評価する。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
国家試験出題課目であるため、講義・演習を通し、学術的理解と同時に試験出題傾向に即した対応力を養成する。担当教員は、薬剤師免許取得。長年専門学校で教鞭をとり、特に国家試験の対策授業は、学生から高い支持を得る。			

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	美容学科 トライエンジコース(3年制)	2025年度	美容学科 トライエンジコース2.3年
講義区分	授業科目名	担当教員	時間数
必修科目	香粧品化学	井上純一	64時間
【授業の到達目標】			
香粧品の基礎を学び、香粧品への理解を深める。国家試験に合格できる学力能力を習得することを目標とする。			
【講義概要】			
理容・美容の業務でお客様に使用する医薬部外品等の薬剤を理解する。各種香粧品の分類・成分・性状・特徴及びその対象となる人体各部の性質について理解する。また、使用目的に応じて、適切な香粧品を選び安全かつ効果的に使用することを学びます。			
【授業計画】			
1 物質の構成、物質(水)の構造・溶解とコロイド 2 イオンと水素イオン指数(pH)・物質の変化と化学反応 3 酸化・還元反応・タンパク質 4 香粧品概論 5 香粧品用原料:香粧品の対象となる人体各部の性状 6 学力能力判定試験試験対策・解説 7～9 香粧品用原料 10～11 学力能力判定試験対策・解説 12～13 基礎香粧品 14 メイクアップ用香粧品:メイクアップ用香粧品の種類と剤形 15 頭皮・毛髪用香粧品:シャンプー剤 16～17 学力能力判定試験対策・解説 18～19 頭皮・毛髪用香粧品:スタイリング剤 20～21 芳香製品と特殊香粧品:芳香製品 22 学力能力判定試験対策・解説 23～30 復習 31～32 学力能力判定試験対策・解説・国家試験対策			
【成績評価方法】			
授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、学力能力判定試験 6回 (1前期・1後期・2前期・2後期・3前期・3後期)により評価する。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
講義形式を基本とするが、実験や国家試験に向けた演習授業も適宜取り入れる。 担当教員は、理科の高等学校教諭の免許状取得。10年以上の講師歴を持ち、国家試験の対策授業には定評がある。			

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	美容学科 トライチェンジコース(3年制)	2025年度	美容学科 トライチェンジコース2.3年
講義区分	授業科目名	担当教員	時間数
必修科目	※文化論	(WEBへの氏名・プロフィール等の公開は希望いたしません)	64時間
【授業の到達目標】			
日本の理容美容の歴史、西洋・日本のファッション文化史・和装・洋装の礼装を理解し、国家試験の合格を目標とする。			
【講義概要】			
さまざまな髪型、化粧、服装の変遷流行を社会背景や時代の要請と結びつけて学びます。流行のメカニズムを知り、時代を読みデザインを起こすために、トータルバランスを含めて理解する。			
【授業計画】			
1	総論・ファッション文化史 西洋編 古代エジプト～中世ヨーロッパ		
2	ファッション文化史 西洋編 16～18世紀		
3	ファッション文化史 西洋編 18世紀末～19世紀		
4	ファッション文化史 西洋編 1910年～1950年代		
5	ファッション文化史 西洋編 1960年代		
6	ファッション文化史 西洋編 1970年代		
7	ファッション文化史 西洋編 1980年代～2010年		
8	和装・洋装の礼装		
9	錯視について 芸術概論		
10～11	まとめ		
12	学力能力判定試験の解説による課題の理解・錯視について		
13	イントロダクション、日本の理容業・美容業の歴史(発生～現代)		
14	ファッション文化史 日本編(縄文・弥生・古墳時代・飛鳥・奈良・平安時代)		
15	ファッション文化史 日本編(平安末・鎌倉・室町・戦国時代・戦国末・安土桃山時代)		
16	ファッション文化史 日本編(江戸時代)		
17	ファッション文化史 日本編(江戸時代・明治・大正・昭和20年まで)		
18	ファッション文化史 日本編(明治・大正・昭和20年まで ②)		
19	ファッション文化史 日本編(1945年～1970年代)		
20	ファッション文化史 日本編(1980年代～2000年以降)		
21	和装・洋装の礼装		
22	学力能力判定試験の解説による課題の理解		
23	1940年から1950年代 1960年代		
24	1970年代		
25	1980年代		
26	1990年代から現在		
27	ヨーロッパ文化史の復習		
28	総合学習		
29	日本編文化史の復習①		
30	日本編文化史の復習②		
31	日本編文化史の復習③		
32	学力能力判定試験の解説による課題の理解		
【成績評価方法】			
授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、学期末学力能力判定試験6回(1前・1後期・2前・2後期・3前期・3後期)により評価する。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
講義形式を基本とするが、国家試験に向けた演習授業も適宜取り入れる。 講師は、美術大学卒業後、美容学校で文化論で教鞭をとっている経験から、国家試験の対策授業に長けている。			

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	美容学科 トライチェンジコース(3年制)	2025年度	美容学科 トライチェンジコース2.3年
講義区分	授業科目名	担当教員	時間数
必修科目	※美容技術理論	☆一井 他	156時間 1年・64時間 2年・64時間 3年・28時間
【授業の到達目標】			
美容技術の基礎となる理論を学び、理論に基づいた正確な技術の修得をめざす。 美容師国家試験に合格する能力を習得することを目標とする。			
【講義概要】			
美容師として学ぶ幅広い技術に裏付けされる理論の知識を習得する。 美容技術にある理論的根拠を理解し、さまざまな技術習得を容易にしていけることを目的とする。			
【授業計画】			
☆1～3 序章・1章美容用具 ☆4～10 シャンプーイング・メイクアップ ☆11～18 ヘアカットイング ☆19～26 パーマネントウェーブ・日本髪 ☆27～28 学力能力判定試験の解説によるまとめ ☆29～32 ☆33～35 ヘアカラーリング ☆36～38 ヘアセッティング ☆39～42 エステティク ☆43～46 学力能力判定試験対策 ☆47 学力能力判定試験の解説によるまとめ ☆48～51 ヘアデザイン ☆52～61 着付け ☆62～67 ネイル技術 ☆68～71 学力能力判定試験対策 ☆72 学力能力判定試験の解説によるまとめ ☆73～85 美容技術理論Ⅰ 総復習 ☆86～92 美容技術理論Ⅱ 総復習 ☆93～97 学力能力判定試験対策 ☆98～99 学力能力判定試験の解説によるまとめ ☆100～107 国家試験対策 ☆108～109 学力能力判定試験の解説によるまとめ ☆110～114 国家試験対策 ☆115～116 学力能力判定試験の解説によるまとめ			
【成績評価方法】			
授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、学力能力判定試験6回(1前期・1後期・2前期・2後期・3前期・3後期)により評価する。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
講義形式を基本とするが、国家試験に向けた演習授業も適宜取り入れる。 担当教員は、美容師としての経験をいかし、現場で必要とされる知識、技術の裏づけとなる理論、接客力を教授する。			

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	美容学科 トライエンジコース(3年制)	2025年度	美容学科 トライエンジコース2.3年
講義区分	授業科目名	担当教員	時間数
必修科目	運営管理	徳永 他	32時間 2年次・14時間 3年次・18時間
【授業の到達目標】			
経営者の視点を理解し、従業員として活躍するためにも、また将来自らが経営者として、活躍するためにも重要であることを理解し、 国家試験に合格できる学力能力を習得する。			
【講義概要】			
「運営管理」では、よりよい理容・美容サービスの提供と顧客満足について学びながら、将来のキャリアプランを構築していくことを学習する。			
【授業計画】			
1 経営とは・経営者とは 2 理容業・美容業の経営について・資金の管理(資金管理の重要性) 3 資金の管理(コストを管理する、税金について)・人という資源(人の能力を高める) 4 人という資源(給与、評価、労働者の権利)・健康・安全な職場環境の実現(健康管理) 5 健康・安全な職場環境の実現・従業員としての視点から(社会保険) 6～7 学力能力判定試験対策・学力能力判定試験解説 8～9 キャリアプランの重要性・自分のキャリアプランを作ろう 10～11 サービス・デザイン(顧客が求める価値とは)(価値の多様性について) 12～13 学力能力判定試験対策・学力能力判定試験解説 14～16 マーケティング(マーケティング・ミックスの要因)(サービスのシステム化) 17～19 サービスにおける人の役割(接客の実践)(接客におけるトラブル) 20 学力能力判定試験対策・学力能力判定試験解説 21～22 復習総まとめ・国家試験対策			
【成績評価方法】			
授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、学期末学力能力判定試験3回(2前期・3前期・3後期)により評価する。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
講義形式を基本とするが、国家試験に向けた演習授業も適宜取り入れる。 担当教員は、美容師としての経験をいかし、美容室経営についての授業を展開する。			

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	美容学科 トライチェンジコース(3年制)	2025年度	美容学科 トライチェンジコース2.3年
授業科目名	授業科目名	担当教員	時間数
必修科目	※美容実習	一井 他	912時間 1年次・262時間 2年次・248時間 3年次・402時間

【授業の到達目標】

美容技術理論に基づき、美容師として必要な技術の修得をめざす。国家試験に合格できる技術能力を習得することを目標とする。

【講義概要】

美容所における衛生管理の重要性を認識させ、器具の消毒等適切な実施方法を学ぶ。
個々の要望に応じた美容技術を提供出来るよう、総合的な基礎を身に付ける授業を展開する。

【授業計画】

1～2	ヘアカッティング			
3～11	(ワンレングス)	ワインディング(オールパーパス)	ブラッシングマツサージ	
12～21	↓	↓	↓	
22～61				
62～66				サマーフェスタ作品制作
67～69	技術能力判定試験			
70～72	技術能力判定試験の解説によるまとめ		ヘアセッティング(ピンカール)	
73～99	ヘアカッティング(セიმレングス)		↓	
100～121	↓	ワインディング(1/2オフ)	↓	
122～125		↓	コンテスト対策	
126～128	技術能力判定試験		ヘアセッティング(7段ウェーブ)	
129～131	技術能力判定試験の解説によるまとめ		↓	
132～174	国試課題 カット	国試課題 ワインディング	↓	
175～179			サマーフェスタ作品制作	
180～182	技術能力判定試験			
183～185	技術能力判定試験の解説によるまとめ		国試課題 オールウェーブ	
186～234	↓	↓	コンテスト対策	実務実習
235～239			↓	
240～242	技術能力判定試験			
243～245	技術能力判定試験の解説によるまとめ			
246～308	↓	↓		
309～313			サマーフェスタ作品制作	
314～316	技術能力判定試験		↓	
317～319	技術能力判定試験の解説によるまとめ			
320～324	↓	↓	コンテスト対策	
325～341			↓	
342～344	技術能力判定試験			
345～347	技術能力判定試験の解説によるまとめ			
348～397	国試対策(第1課題)	国試対策(第2課題)		
398～405	国試対策(メイク・着付け・エステ・ネイル)			

【成績評価方法】

授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、学期末技術能力判定試験6回(1前期・1後期・2前期・2後期・3前期・3後期)と実務実習の点数により評価する。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

実習形式を基本とするが、講義・演習・実技も適宜取り入れている。担当教員は、美容師として4年以上経験し、美容師としての実務経験を活かし、美容師養成に向けて授業を展開する。

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	美容学科 トライエンジコース(3年制)	2025年度	美容学科 トライエンジコース2.3年
講義区分	授業科目名	担当教員	時間数
選択・一般教養課程	生活文化と作法	一井 他	32時間
【授業の到達目標】			
日常生活の中での礼儀作法やマナーを、学校の中での集団生活を通じて習得することを目標とする。 基本的社会規範やコミュニケーション技術を学ぶ。			
【講義概要】			
美容師として、社会人として、一般的に身に付けておきたい常識やマナーについて学び、集団の中での個々の役割、立場、振る舞いなどを考えていく授業。			
【授業計画】			
1	掃除の重要性		
2	モラルについての研究		
3	ツキを呼ぶ魔法の言葉・美容で感動を与える		
4	美文字・ボールペンで美しい字を書く・縦書き・横書き		
5	漢字検定・ビジネスシーンでよく使う漢字の読み書き		
6	1年次振り返り・日常生活におけるマナーと接客業のかかわりについて		・レポート①
7	作文(小論文)の書き方		
8	二十四節季・日本の四季		
9	手紙の書き方・時候の挨拶・季節の挨拶・お礼状と縦書き封筒		
10	履歴書の書き方・面接時の注意点		
11	2年次振り返り・日常生活におけるマナーと接客業のかかわりについて		・レポート②
12	履歴書復習・自己PR文の書き方・就活対策		
13	テーブルマナー研修		
14	ビジネスマナー①・敬語・ビジネス語・謝罪の仕方		
15	ビジネスマナー②・名刺の渡し方・来客対応・席次・お茶の出し方		
【成績評価方法】			
授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、2回のレポートにより評価する			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
講義と演習を基本形式とし、実技を適宜取り入れる。 担当教員は、美容師としての実務経験を活かし、美容師に必要なエチケット・マナーについて教授する。			

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	美容学科 トライエンジコース(3年制)	2025年度	美容学科 トライエンジコース2.3年
講義区分	授業科目名	担当教員	時間数
選択・一般教養課程	※造形心理学と表現	☆藏重	32時間

【授業の到達目標】

- ・デッサンを通してものを正確にみる力を養い、的確な判断(一人一人に合う髪型等について)が出来るようになる。
- ・ヘアデザイン画において創作的な技術を身に付け、ヘアデザイン画が描けるようになる。
- ・色彩論の基礎を学びながら、実践的な造形表現力を身に付けることを目的とする。

【講義概要】

デッサンの基礎技術を学ぶ。
色彩の心理的効果や視覚効果、配色・コーディネート の基礎などを学びつつ、混色のやり方や色彩構成などの基礎技術を学ぶ。

【授業計画】

☆1	授業目的と流れ、課題、道具、ヘアデザイン画、デッサンについての説明 顔のパーツの位置づけの数字的考え方について説明・目と鼻の説明、教科書のトレース練習
☆2	唇と輪郭の説明、トレース練習
☆3	斜め、横など正面以外の顔の描き方について説明・それぞれの角度をトレース練習
☆4	髪の毛の描き方の説明、トレース練習。教科書を参考に顔と髪を描き提出
☆5	課題説明、課題の下準備、構図についての説明(参考資料引用)・下準備が終わり次第描き始める
☆6	課題の続き。描く上でのポイントなど個別での指導も行う
☆7	課題の続き。早く進んでいる生徒へヘアデザイン画再度説明、作成
☆8	課題の続き。仕上げのポイントなど説明、仕上げて 提出
☆9	イントロダクション、色の仕組みについて・トーン表の作成
☆10	ミニテスト、色相・明度・彩度のプリント作成・色の心理的効果について
☆11	ミニテスト、色の視覚効果(対比・同化)・錯視について(「美容とデザイン」について含む)
☆12	ミニテスト、配色について・Work Paperの作成
☆13	ミニテスト、Work Paperの作成・色相環の作成、混色について
☆14	色相環の作成・色彩構成
☆15	色彩構成
☆16	世界の様々な造形表現について、色彩構成・色彩構成発表

【成績評価方法】

授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、下記内容により評価する。
(1前期)教科書を参考にした顔、髪 のデッサンを提出
(2前期)課題作品 A3イラストボードにデッサン(写真を参考。主に顔、髪を中心としたもの)
各提出物、ミニテスト及び授業態度により総合的に評価

【授業の特徴・形式と教員紹介】

講義・実習を通してデッサンでは教科書のイラストをもとに顔の各パーツや髪の描き方、正しい配置等を習得する。課題の作品は写真を元に時間をかけて取り組み、描く事を通して観る力を養う。 また、造形心理学では毎回プロジェクターにて資料投影(プリント配布)、ミニテストでの復習や色彩構成などの実技を通してさらに理解を深めていく。
担当教員は、美術大学を卒業、15年以上の美容室経営の経験をいかし、心理作用を分かりやすく教授する。

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	美容学科 トライエンジコース(3年制)	2025年度	美容学科 トライエンジコース2.3年
講義区分	授業科目名	担当教員	時間数
選択・一般教養課程	保健体育	中村	32時間
【授業の到達目標】			
・各種運動を通して、公正、協力、責任などの態度を身に付ける。 ・体育の授業力向上に向け、自己学習課題を明確にもち、主体的に学習に取り組む。			
【講義概要】			
綱引き、バレーボール、ドッジボール、バスケットボール、バドミントン競技等を行い、チームを強化し、チームワークのあり方を学んでいく。			
【授業計画】			
1 球技を通して、行動力、協力体制を培う 2 球技を通して 勝敗から主体的に勝利すべく道筋を研究する 3～4 バレーボール競技 5～6 ドッジボール競技 7 綱引きを通して、自己課題への到達を目指し、チームの役割を担う力を養う 8 綱引き競技 勝敗から主体的に勝利すべく道筋を研究する 9～10 バスケットボール競技 11～12 バドミントン競技			
【成績評価方法】			
授業への参加を評価する。 全時間出席90点、1～2時間欠・80点、2～4時間欠70点、それ以上の欠時間を60点とし、 授業における発言や態度(10点)を評価する。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
全時間実技を通して構成している。 中学校・保健体育の教諭免許状取得。スポーツを通して、チームビルディングの大切さを教授する。			

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	美容学科 トライチェンジコース(3年制)	2025年度	美容学科 トライチェンジコース2.3年
授業科目名	時間数/回数	担当教員	時間数
選択・一般教養課程	※接客法	佐々木 他	32時間
【授業の到達目標】			
・ビジネスマナーを理解し、理美容業における接客の技術を習得し、サロンで必要不可欠なコミュニケーション能力を身に付け、 実務実習にて高評価を得ることを目標とする。			
【講義概要】			
サロンの接客業務を学び、ロールプレイングにより、接客スキル向上させていく。 また、ブレinstーミングにより、接客に対する思いを共有していく。			
【授業計画】			
※☆1	サービス接遇の必要性の理解・挨拶・お辞儀		
※☆2	言葉遣い・プラス言葉とマイナス言葉・敬語・接客用語・よさね言葉		
※☆3～4	立ち振る舞い・身だしなみ		
※☆5	電話対応		
※☆6	伝える力		
※☆7	コミュニケーション能力		
※☆8～9	レセプション業務		
※☆10	職場の基本モラル		
※☆11～12	カウンセリング技術		
13	実務実習報告書から学ぶサロンワークの現状		
14	マナー研修		
14	理想の接客法	レポート	
【成績評価方法】			
授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、最終回のレポートにより評価する			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
全体の2/3を講義、1/3を実習として構成している。 担当教員はサロンでの美容師人材育成の経験をいかし、現場で必要とされる知識、接客力を教授する。			

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	美容学科 トライチェンジコース(3年制)	2025年度	美容学科 トライチェンジコース2.3年
講義区分	授業科目名	担当教員	時間数
選択・一般教養課程	日本文化(伝承美)	斉藤 他	62時間

【授業の到達目標】

立て矢帯、ふくら雀帯、二重太鼓帯の帯結びの技術を習得する
新日本髪のかき方を学び、髷・髻・前髪・髷の位置、構成また、面・全体の仕上がりを意識した日本髪が結えることを目標とする。

【講義概要】

日本の伝承美である着付と日本髪の基礎を学び、自己表現力を培い、着付けの帯の結び方や日本髪を表現していく。

【授業計画】

1 着物着付け、小物、着物のたたみ方、着物着付け理論理解

	帯結び	日本髪
	二重太鼓帯の説明と実践	黒ゴムの縛方・ローラーの巻き方
	立て矢帯の説明と実践	逆毛の立て方
	ふくら雀帯の説明と実践	梳き毛の作り方
	着付けデモンストレーション	土台の作り方
	3種帯結び展示・練習	髷の作り方
2～23	試験	髻の作り方
		前髪の作り方
		髷の作り方
		バランス強化
		タイムアップ強化
		試験
24	着物の種類・帯の種類について展示・グループに分かれ実践	
25	かつら・簪種類について展示・グループに分かれ実践	

【成績評価方法】

授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、帯結び・日本髪共に作品により構成の理解度を評価する。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

実習形式を基本とする

担当教員は、技術者としての長年の経験をいかし、伝承美である着付けと日本髪の技術を伝える。

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	美容学科 トライチェンジコース(3年制)	2025年度	美容学科 トライチェンジコース2.3年
講義区分	授業科目名	担当教員	時間数
選択・一般教養課程	総合学習	一井 他	36時間

【授業の到達目標】

美容師としてだけでなく、社会貢献できる人材の育成を目指すことを目標とする。

【講義概要】

現代の社会問題について、現況と解決策を考え、社会との関わりを学習する。

【授業計画】

- 1 悪徳商法被害防止講習：東京都消費生活総合センター
- 2 江ノ島ビーチクリーン ※レポート
- 3 選挙セミナー：選挙管理委員会
- 4 年金セミナー：中野年金事務所
- 5 サロン講話
- 6 インターネット・SNSのトラブル防止講習：東京都消費生活総合センター
- 7 租税教室 東京都租税教育推進協議会
- 8 賃金セミナー：東京都労働局、日本賃貸業協会
- 9 国試対策・衛生について
- 10～19 国試対策・筆記模擬
- 20 解答まとめ

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	美容学科 トライエンジコース(3年制)	2025年度	美容学科 トライエンジコース2.3年
講義区分	授業科目名	担当教員	時間数
選択・専門教育課程	※ヘアカラーリング	二面 他	62時間
【授業の到達目標】			
ヘアカラーの技術・知識を習得し、検定試験合格を目指す。 ヘアショーに於いてモデルのカラーリングを施術を行い、準備やモデルへの配慮などウィッグとの違いを学び得ることを目標とする。 国家試験に向けての知識を習得。			
【講義概要】			
ヘアカラーの基礎技術・知識を習得し、検定資格を取得します。 応用の技術取得後、モデルのカラーリングを施術を行い、即戦力となる知識・技術・接客力を学び得る。			
【授業計画】			
☆1	カラーの基本知識 色の種類 色の三属 毛髪知識 髪色の変化 【チェックテスト】		
☆2	種類と染毛原理 アプリケーション リファレンス 【チェックテスト】		
3	筆記テスト		
☆4～5	検定準備・カット		
☆6～7	トリートメント剤による塗布練習		
☆8～10	ブリーチ剤による塗布練習		
	カラー検定試験 ブリーチ(1剤60g:2剤120g)		
11	検定試験の振り返り・復習・ホイルワーク理論		
☆12	ホイルワーク ベーシック テクニックの説明と実践		
☆13	グラデーションカラーの説明と実践		
☆14	オンカラーの説明と実践		
☆15～16	スライシングの説明と実践		
☆17～19	リタッチカラーの説明と実践		
☆20	ヘアカラーのデッサンと行程		
☆21	ブリーチの実践(全頭またはホイルワーク)		
☆22	オンカラーの説明と実践		
☆23～26	ヘアカラー理論対策		
☆27～28	国家試験筆記・対策		
☆29～30	国家試験筆記・対策		
【成績評価方法】			
授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、検定試験による評価する。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
実習を基本形式とし、講義を適宜取り入れる。 担当教員は美容室でのヘアカラー経験をいかし、現場で必要とされるヘアカラーの知識、技術、接客力を教授する。			

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	美容学科 トライチェンジコース(3年制)	2025年度	美容学科 トライチェンジコース2.3年
講義区分	授業科目名	担当教員	時間数
選択・専門教育課程	メイクアップ	二面 他	94時間
【授業の到達目標】			
メイクアップの基礎理論として技術を習得し、メイクアップ検定3級資格取得を目標とする。まつ毛エクステーションの技術の習得と併せて衛生や保健を理解し、まつ毛エクステーション実技検定3級取得を目標とする。			
【講義概要】			
顔の形態学的な観察から基本となるナチュラルメイクを習得する。色彩心理学等を組み合わせて、創造性や表現力を身につける。また、メイクアップの基礎を踏まえて、特殊メイクへの応用に繋げる。 まつげエクステーションにおいては、眼及びまつ毛などの眼付属器官の構造及び機能について知識と技術を習得する。			
【授業計画】			
1	教材準備、皮膚のメカニズムと基礎化粧品について、box中身準備、机上道具配置、モデル取り扱い		
2	スキンケア	オイルクレンジング ～ スキンケア 顔全体・ポイント(口/目/眉)	
3～4	ベースメイクアップ		
5～7	ポイントメイクアップ		
8	技術能力判定試験・解説まとめ		
9～11	模擬練習 / 試験要項説明		
12	メイクアップ検定試験3級試験		
13	試験解説によるまとめ/ ポイントメイク応用 (韓国メイク)		
14	目の強調メイクアップ		
15	モードメイクアップ		
16	試験コピーメイクアップ / 撮影結果		
17～18	課題制作		
19	まつエクとは概要・衛生・目とまぶた/商材説明とテーブルセッティング		
20	アレルギーについて・カウンセリングとアフターケア/テーブルワーク		
21	施術の手順・テーブルワーク復習・プレケア・ツィーザーワーク・オフ		
22～27	ツィーザーワーク復習・装着		
28	筆記対策① 小テストと解説・まつエクのデザイン		
29～31	タイムアップトレーニング・チェック ・筆記小テスト		
32～36	模擬試験	筆記対策②小テストと解説	
37	検定試験 解説によるまとめ		
38	テクニカルの基礎(三善)		
39	ステージメイクアップ(三善)		
40	歌舞伎風の化粧(三善)		
41	キャッツ風のメイク(三善)		
42	特殊なメイク(傷・アザ)・筆記テスト(三善)		
43	メイクアップ総復習①		
44	メイクアップ総復習②		
【成績評価方法】			
授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、出席状況、提出物、検定試験試験、学力能力判定試験により評価する。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
実習を基本形式とし、講義を適宜取り入れる。 担当教員は、サロン経験をいかし、現場で必要とされるメイクアップの知識、技術、接客力を教授する。			

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	美容学科 トライチェンジコース(3年制)	2025年度	美容学科 トライチェンジコース2.3年
講義区分	授業科目名	担当教員	時間数
選択・専門教育課程	※シャンプー＆ブロー	石川 他	64時間
【授業の到達目標】			
サロンの実践的技術を導入し、サイドシャンプー、バックシャンプーともに20分で仕上げることを目標とする。サロンで需要が多くなってきているヘッドスパ技術も習得する。			
【講義概要】			
サロンワークを踏まえ、サイドシャンプーの基本的な手順やマッサージ技術を習得する。サイドシャンプーの基本技術をもとにバックシャンプー技術へと繋げる。最終的に、ハンドブローやヘッドスパ技術まで理解する。			
【授業計画】			
1	シャンプー台の使い方 お通し～ひざ掛け～クロス掛け～プレーンリンス～掃除の説明と実践		
2～16	サイドシャンプー プレーンリンス～泡立て～ファーストシャンプーの説明と実践 ↓ ブロー(ブラッシング・ハンドブロー・ストレート) プレーンリンス～泡立て～タオルドライ～ターバンドライ ファーストシャンプー～リンス・トリートメント～ブローの復習と徹底 20分間で仕上げるための技術指導 技術能力判定試験と評価解説による課題の提示 技術能力判定試験からの課題の徹底 セカンドシャンプー～リンス・トリートメント～ブロー 20分間で仕上げるための技術指導 技術能力判定試験と評価解説による課題の提示 技術能力判定試験からの課題の徹底		
17～24	バックシャンプー プレーンリンスの説明と実践 ↓ ファーストシャンプーの説明と実践 セカンドシャンプーの説明と実践 トリートメントの説明と実践 20分間で仕上げるための技術指導 技術能力判定試験と評価解説による課題の提示		
【成績評価方法】			
授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、チェックシートによる3回の技術能力判定試験により評価する。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
実習・実技を基本形式とし、講義を適宜取り入れる。 担当教員は美容室でのサロン経験をいかし、現場で必要とされるシャンプーとブローの知識、技術、接客力を教授する。			

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	美容学科 トライチェンジコース(3年制)	2025年度	美容学科 トライチェンジコース1.2.3年
講義区分	授業科目名	担当教員	時間数
選択・専門教育課程	※総合技術	小宮 他	189時間
【授業の到達目標】			
様々な美容の技術に触れ、知識と技能を習得する。オムニバス形式の授業の中で、業界に求められている技術を研究する。			
【講義概要】			
基礎から最新の技術まで、美容に関する幅広い知識と技術を実践を通して身に付ける授業。			
【授業計画】			
1	メイクデモンストレーション(顔分析)		
2	レジーナウィッグ講習		
3	ライトドライヤー講習		
4	ウツミシザーズ講習		
5	ヘアショーの実践		
6	フォト講習 カメラの基礎知識・作品撮り		
7	DVD鑑賞・ファッション研究		
8～12	校内技術コンテスト		作品課題①
13	エステティック技術		1年次
14	カット デモンストレーション(ZENKO)		
15～22	ネイル技術		2年次
23	選択実習(サロンスタイル・ヘアアレンジ)		
24	校内技術コンテスト		作品課題②
25	ヘアショーの実践		
26～42	ヘアショー研究 3回		
43	男袴・女袴 デモンストレーション(マイム)		
44	ヘアスタイル制作 (美容室ぬばたま)		3年次
45	ヘアショーの実践		
46～49	校内技術コンテスト		作品課題③
50～55	国家試験対策 衛生・模擬		
56	サロンスタイリスト 講話		
【成績評価方法】			
授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、3回の作品課題と各学年での技術(エステティック技術・ネイル技術・ヘアスタイル制作)の点数により評価する。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
実習・実技を基本とするが、講義も適宜取り入れる。 担当教員は、サロンワークの経験をいかし、美容室における時代のニーズに合わせた技術や知識をより実践的に教授する。			